

---

Dear my bear

日賀 巽

---

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

D e a r   m y   b e a r

### 【Nコード】

N 4 7 1 9 0

### 【作者名】

日賀 巽

### 【あらすじ】

卒業式。高校生になる中学生と、彼女を見守るくまの話。短いです。

ただいま、くー。

帰ってきたご主人は、制服のまんまでぼくをぎゅーとした。制服からは春のお日さまの匂いがして、ぼくはすこし眠くなった。

ご主人の胸元にはリボンのついた紙の花飾りが揺れていて、そういえば今日はご主人の卒業式だったと思い出す。学校、もう最後なんだ、とご主人は寂しそうな顔をしていたからちよつと心配したけど、大丈夫だったみたい。ほつとした。

みんな泣いてたけど、私泣かなかったよ。すごくない？

ご主人の目の縁が赤いのは、今流行りの花粉のせいだろうか。ぼくはビーズの目でご主人をじつと覗き込む。

ぼくの名前はくー。ご主人の五つの誕生日からかれこれ十年と十一ヶ月、ずっとご主人のそばにいろくまのぬいぐるみだ。少しだけくたつとした柔らかい生地で、明るい茶色の毛と首もとのリボンがちよつと自慢。

あつという間だったなー。もう女子高生だよ、私。

いつもなら床に雑に投げちゃうブレザーを綺麗にハンガーに掛けながら、ご主人は言った。そういえば、今朝していったはずのタイはどうしたんだろう。

リボン、後輩にあげてきた。記念に欲しいって言われてね。

ああ、前に部屋に遊びにきたあの可愛い子だね。

センパイセンパイってご主人に妹みたいにくつついてた彼女に、すこしやきもちをやいたのは内緒だ。

あの子の方が私より泣いてて大変だったんだ。

お姉さんっぽい優しい目つきでご主人は笑う。後輩のことを話すときのご主人は、なんだか大人びていてかっこいい。

ねえ、くー。

何かな、ご主人。

私さ、一人だけ外部進学するじゃない。

……ああ、そうだったね。

ご主人が通ってたのは、小学校から高校までが繋がってる学校で、ほとんどの子達は内部進学するらしい。最初はご主人も内部進学するつもりだったみたいだけど、三年生になった春、お父さんとの壮絶なバトルのすえに、ご主人は外部進学を決めた。

……あの日々のことは忘れてくても忘れられない。だってぼく、ほぼご主人のリーサルウェポンだったし。お父さんに向かって投げられたし。

私、世界が限られちゃうのが嫌だったの。あの学校が嫌いな訳じゃないけど、ずーっと変わらないあの空気の中で、時間だけが過ぎてくのとって、なんか怖い。気がついたら、なにもかも終わっていきそう。

ぼくは、静かにご主人を見る。ぼくの周りの空気は変わらない。いつまでたつてもぼくはこぐまの姿のままなのに、ご主人はどんどん大きくなっていく。

変わらない、変わらないぼくには、変わりたいと願うご主人の気持ちはよくわからないけど　きつとそれは、望ましいけれど勇気のいる、すごく大変なことなんだろう。

ご主人は制服を脱ぐと、ぼくを抱えてベッドに倒れ込んで、ぼくのお腹にぎゅうぎゅうと顔を埋めた。

そうやって大見栄切ったのはいいけどさ、今になって少し、怖くなってきた。

くぐもった声が少し震えていることに、ぼくは気づく。

他のみんなは、中学出ても多分ずっと変わらないで仲良いま

ま高校で過ごすんだよ。私はみんなが知らないところで知らない私になるんだろうし、みんなも、私が知らないところで知らないみんなになるんだよ。……それに私、今までみたいに上手くやっていけるかな。新しい場所で。知らないひとと。

ぼくをぎゅーっとする腕も、ベッドに投げ出された足も、すごく細くて頼りない。ぼくのお腹に、いつかずっと昔みたいに温かい何かが染み込んでいく。

……大丈夫だよ、ご主人。

ぼくは、動かないビーズの目で笑ってみようとする。変わらないってことは、悪くならない代わりに良くもならないってことでしょう。ご主人もご主人の友達も、きっといい方へ変わっていくよ。会った時に何かが変わってることに気づいても、それを埋めていけるくらい強くなればいいじゃない。

絶対大丈夫だよ、ご主人。だから泣かないで笑って。いつもみたいに、笑って。

いつの間にか眠ってしまったご主人の穏やかな呼吸に耳を傾けながら、ぼくは窓の外を眺める。

空は、茜色から深いたっぷりした紺色に変わり始めていた。

（後書き）

友人がスケッチブックに書いていた、くまを抱きしめた女の子の絵から生まれました。

まとまりきらない感があふれ出ている……また精進しなくては。

テーマ？ えーと、変化って誰でも怖いよね、みたいな感じでした。適当適当。

それでは、またどこかでお会いしましょう。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n4719o/>

---

Dear my bear

2010年10月23日21時16分発行